**第１章　中国の不動産市場に何が起きているのか（主にゴーストタウンのルポを扱い、その生々しさで読者の興味をひく役割）**

●中国の不動産危機の概要（最低限の知識だけ入れておく）

↓

●こうした不動産危機が最初に分かりやすく表れたのは都市ではなく地方だった（なぜなのかが簡潔に説明してあるとありがたいです）。2010年代から「新城」の建設が進んでいたが、ほとんど住民のいないゴーストタウンが急増。

↓

●一体、中国の不動産市場に何が起きているのか。ゴーストタウンハンターとして、地方を訪ね歩いていくことにした。

↓

●それぞれのゴーストタウンのルポ

（※現状では夜の風景が最初に来ていて、それはそれでドラマチックな始まり方。後藤案の構成にするとドラマチック感は薄まる可能性あり・・・）

↓

●地方だけではなく都市部の状況も悪化してきている。中国経済全体の危機へとつながっていく可能性がある。中国の未来を占うためにも、この危機の本質を探っていくことが重要→第二章へとつながる・・・みたいな流れになっていると、個人的にはとても分かりやすいなと思いました。

**第２章以降**

●中国の不動産危機を、短期（コロナ禍以降の財政金融政策の歪み）、中期（都市化政策の失敗）、長期（合理的バブル）の視点から読み解いていく。

以下、気になったこと（原稿にコメントもつけています）

●梶谷さん、高口さんのパートがきっちり分かれているせいで、時系列がいったり来たりしている部分があります（例えば、恒大集団の本部前の集会から、コロナ禍の財政金融政策にカットバック）。思い切って混ぜてしまって、順番に説明していったほうが、読者にとっては読みやすいのではないかと思いました・・・

●「民生部門の保障不足と格差の拡大」のパート。短期、中期、長期の説明の中で浮いてしまっている印象を受けます。

●ランウェイロウと予約販売制度、第１章でも説明していますが、都市化政策の失敗のパートでもほとんど同じ説明が出てきており気になります。第１章も結局、都市化政策の失敗の話ではあるので、多少のダブリは仕方なし？